

抄録

結核専門雜誌

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose, Bd.

76, H. 2/3.

1、肋膜肥厚ノ石灰化

Th. Behrendt.

肋膜肥厚ノ石灰化ニ對スル研究ハ一九二〇年以來ノモノニシテ初メ之ガ例ハ著シク尠キモノナリトヤシモ著者ノ一九二九年二月—一九三〇年九月迄ノ二〇ヶ月ノ研究ニヨレバ決シテ珍ラシカラズ、レ線透視例八八六、撮影例八六八中一一例ヲ見出セリ、又之ガ原因ニ於テハ種々アルモ著者ハ Lente, Ulrich 等ノ說ナル刺傷ニヨル血胸ノ結果オコルモノナル說ニ贊シ、結核ハ寧ロ石灰性肥厚ニハ餘リ大ナル役ニ立タズトシ之ニ一一二例ノ病歴及レ線寫眞ヲ示セリ。

(太田抄)

2、肺結核症ノ結核恢復期患者血液療法ニ就テ

J. Leiner.

著者ハ前號ニ於テ恢復期結核患者血液ヲ以テセル肺結核症ノ治療ニ就テ記載セルガ本號ニ於テモ之ガ治驗例ヲアゲタリ、用ヒシ患者六三例、増殖型五六例、浸出型七例、第一期二七例、第二期一七例、第三期一九例、有空胸型一一例、又、開放性三六、閉塞性二七、進行性一五、停止性四八例ナリ又二二例ハ治癒シカケテ居リ二例ハ人工氣胸ヲ四例ハ横隔膜神經捻除ヲ行ヒシモノナリ。

リ行ヒシ結果ハ四三例ノ輕快、一八例ノ稍々輕快、二例不變、二例増悪、之ノ療法ノ效果作用ハ思フニ一部分特異性ニシテ血液中ノ抗體ガ抵抗力ヲ増サシメ他ニ非特異性ニ刺戟療法内分泌療法トシテノ效果作用ナラント、然シヨノ血液供給者ヲ求ムルコト困難ニシテ之ガ保存モ難シ故ニ Uhrenhuth ニヨレバ牛ノ免疫血清ヲ用ヒルヲ真シトナシ一一例ニ行フ、三例良好ナルノミ、之ガ方法ハ一乃至一〇珩ヲ初メ一珩位ヨリ一週一回位筋肉内注射方法ニヨルト。

(太田抄)

3、炭塵末ヲ以テセル肺結核治療

W. Glaser.

從來ヨリ炭塵ニ於ケル礦夫ノ結核尠キヨリ炭塵吸入法行ハレシガ Wedekind ハ靜脈内注射液、Carbon ナル炭塵製劑ヲ造リ之ヲ以テ吸入ヨリハルカニ良シト云ヘルヲ以テ之ガ追試ヲナス A. Lise. モ八例ニ良結果ヲ得タリト云フ、著者ハ一九例ノ肺結核患者ニ之ヲ行ヒシニ吸入療法ト右注射ノ效果作用ハ比較シ得ズ然モ他ノ治療方法ニ比シテ敢テ卓越セル成績ヲ認メズ。(太田抄)

4、一八年間ニ於ケル八〇〇例人工氣胸ニ

就テノ統計的報告

Gritnewald.

著者ハ一九二一—一九二九年間ニ八〇〇例ノ人工氣胸ヲナン之ガ統計ヲトシ、初メ適應症ヲ四種ニ分チ、
一、絶對的適應症 A、一側性纖維素型
B、慢性浸潤性經過ノモノ
二、相對的適應症 一側性纖維素性ニテ他側ニ僅カニ存スル者
三、症候的適應症 比較的慢性肺炎性潰瘍性經過ヲトル者

四、關生命的適應症 生命ノ危險ナル出血アル場合ノモノニ分テリ、之ニヨリテ男三〇女四七五例其内小兒(一五歳以下)五八例ニ就テ之ヲ皆、一、二、三、四ノ適應ヲ分チテ統計ヲトリタリ癒著ノ爲メ不可ナル者男六八女一〇五例、残り男二三二例中働キ得ル様ニナレル者五五%、女、三七〇例中五五%ナリ然シテ合併症ニ就テハ肋間腔浸出液アリシ者、男一〇二(四四・四%)、女一六六(四四・八%)膿胸ヲオコセル者、男一〇例、女一五例ナリキ。

(太田抄)

5、人工氣胸ニ際シテノ懸垂狀空洞及其危

險ト除去

Pomplun.

著者ハ人工氣胸ニヨリテノ懸垂狀空洞即チ氣胸ノ爲ニ空洞ガ胸壁ニ癒著シテ之ニ懸垂セル形ノモノハ非常ナル危險ヲ來ス可キヲ説キカ、ル者ニ決シテ尙ホ補給ヲ行フ可カラザルコトヲ注意セリ、然シテ之ヲ除ク可ク第一ノ方法ハ胸隔燒灼術ニテヤコベウス氏等ノモノヲ行フ、即チ人工氣胸後三ヶ月モ空洞ノ萎縮セザル時ハ必ズ之ヲ行フ可キナリ然シ又何カ危險ノオコレル時ハ三ヶ月以内ニテモ行フ可シ又コノ燒灼術モ不可能ナル時ハ横膈神經捻除術ヲ行フ然シ著者ハ之ニ餘リ多クヲ期待シ得ズムシ胸隔整形術ヲ行フニシクハナシト。

(太田抄)

6、人工氣胸ノ合併症トシテノ頸部神經叢

及上搏神經叢ノ神經炎ニ就テ

Hans-J. Schmidt.

人工氣胸施術後殊ニ其補給後ノ神經痛又ハ神經炎ニ就テ文獻ハ稀ナモノニシテ且ツ劇シキモノナルコトヲ報告セラル、モ著者ハ頸部神經版圍及ビ上膊神

經版圍ニ神經痛ヲ來シ尙ホノミナラズ知覺及運動ノ障礙ヲ來セル例ヲ報告セリ、之ハ全ク特發性ニ來ルモノニシテ肋膜腔ノ炎症的作用ニ關係ヲ有スラント。

(太田抄)

7、横膈膜神經捻除術ノ後ノ合併症

K. Zehner.

著者ハ横膈膜神經捻除施行後八日ニ喉頭部ノ嚥下困難ヲ來セル患者ヲ報告シ之ハ手術ノ直接ノ影響トシテ咽喉部軟骨膜炎ヲオコセル爲メナラントセリ即チ期間ガ手術後短ク且ツ手術前喉頭部ニ殆ンド變化ヲ見ズ。之喉頭部ガ手術ノ結果結核菌ノ保持處トナリ菌ノ活動性ヲ高メシ爲メナラシカトモ云フ。

(太田抄)

8、骨結核症ノ經過中ニ於ケル漿液膜炎ノ

發生ニ就テ

K. Schuberth

著者ハ各處ノ漿液膜炎即チ肋膜炎、心囊炎等ヲ來セル患者五例ヲ報告シ之ハ Neumann ノ所謂 Pleurite a repetition ノ第二型ニ入ルモノナラントテ此第二型ヲ説明セリ、即チ他ノ外科的結核ガ増悪シ之ニ伴ヒテオコル其増生の肋膜炎ヲ Neuman ガ名付ケジモノナルコト及診斷等ヲ記載セリ、然シテ著者ハ骨結核症ノ多數ニ之ヲ認メ得ルト云フ、然シテ其局所的増悪來スコト多ク且ツカ、ル現象ハ外科的結核症ノ血行性成立ナルコトヲ證スルニ足ル、且ツ結核ノ進行ヲ示スモノナリト。

(太田抄)

9、結核性氣管枝動脈炎ニヨリテ起レル氣

管枝栓塞ノ結果トシテノ右肺萎縮ノ一例

A. Trapsanz, w.

以線診斷ニヨリテ發見セル表題ノ如キ八歳ノ小兒結核患ノ一例ヲ報告セリ。

(太田抄)

10、特發性橫隔膜弛緩ト其肺結核トノ關係

ニ就テ

L. Lagèrge u. E. Symens.

著者ハ特發性橫隔膜弛緩ノ患者五例ヲ報告シ之ヲ説明セリ、即チ一九〇六
Wielsing ニヨリテ初メテ記載セラレ多クハ高位ニ止ル然シテ稀ナラズト似
タル橫隔膜「ヘルニア」ヨリモハルカニ多シト又右側ヨリ左側ニ多クコノ成立
原因ハ先天性ト後天性トアリ又解剖學上筋肉障得ト神經障得トニ分ツト、又
橫隔膜「ヘルニア」トノ鑑別診斷ハ種々ノ點ヨリ學者ニヨリテ論ゼラル、モ非
常ニ困難ナルコト多シ、臨牀的現象ハ殆ンド同様ナレバナリ、各相違點モ之
ニ特殊ナルコトナシト、又橫隔膜弛緩ノ死因ハ癌又肺炎、心臟衰弱等ヲ記載
セルモ之ニ結核ノ合併セルモノ一例ノ記載ヲ見ズ。

(太田抄)

11、肺結核ト遺傳ニ就テ(第一報)

H. Minter.

著者ハオランダノ醫師 Theodor Doyer が結核ト遺傳ニ就テ記シ之ニテ結核
が感染ノミニヨルナラバ結核ノ環境ニ生ズル者ハ常ニ結核ニ感染セザル可ラ
ザルニ實ハ一部ノ者ノミが感染スト説ケルニ響鳴シ一般疾病ト遺傳關係ヲ記
載シ結核モ亦一定ノ遺傳的條件ヲ何カ有スルモノナラントシ之が研究ニ從事
セリト、之が方法トシテ統計の方法ヲ最モ適當トシ一八五二—一九二六年ノ
間ノ各家族ノ血統ヲ地方官ニ託シテ數代ニサカノホリテ研セリ、其内結核ニ
テ死亡セル者ヲトルニ肺臟ノ素因的弱點アル如キ者多キヲ知レリトシ他ノ研
究ハ第二報ニユヅレリ。

(太田抄)

Zeitschrift für Tuberkulose, Bd. 57, H. 1/2,

12、佛國ニ於ケル結核死亡率ノ減少

Léon Bernard u. Yves Briaud.

死因ニ就テノ佛國ノ統計ハ、巴里ダケハ一八七六年マテ人口三萬以上ノ都市
テハ一八八七年マデ、人口五千以下ノ町村トシテ佛國全體ノモノトシテハ
一九〇六年マテ調査ガ出來テキル。大戦中ノ結核死亡數ノ調査ハ、佛國領地
ノ占領サレタノミ尙ホ占領サレナカツタ地域ノ住民ノ數的動搖ノ爲メニ非常
ニ困難ナモノデアツタ。著者等ノ調査ハ此ノ住民ノ動搖ヤ、場所ノ變換ナドヲ
顧慮シタモノデ、數字のニ佛國ノ結核死亡率ノ減少シタノヲ明カニ示シテキ
ル。都市デハ其ノ減少ガ非常ニ明瞭デ、此ノ四十年以來巴里ノ結核死亡率ハ
半減シテキル。其ノ他ノ人口三萬以上ノ凡テノ都市デハ三分ノ一ダケ減少シ、
此ノ二十年間ニ佛國全體デハ約五分ノ一ニ減少シテキル。而カモ一九二九年
中ハ益々減少スル傾向サヘ見ラレタ。是等ノ事實ヲ肯定スルタメニ著
者等ハ、直接ノ結核豫防法(結核相談所及ビ病院ノ設立)ガ極メテ初期ナガラ
發達シタノガ、此ノ速カナ減少ト云フ事ニ影響ガアツタモノト認メ、又此ノ
實際的事業ガ、佛國ノ都市ニ於ケル結核死亡數ノ減少ト云フ目的ニ益々近ツ
イタト云フ事ヲ是認シテキル。佛國全體ノ男子ノ死亡率曲線ハ、四十歳乃至
四十五歳ノ間テ最高ヲ示シ、女子デハ二十歳乃至二十五歳ノ間テ最高ヲ示シ
テキル。男女共佛國全體デハ、其ノ曲線ガ最大値カラ低下スル有様ガ、巴里
ニ於ケルヨリモ急激デアアル。之ノ事ハ地方ニ於ケル高齢者ノ結核死亡例ニ巴
里ニ於ケルヨリモ稀ダト云フ事ヲ意味シテキル、年齢ト住所(都市或ハ田舎)
ニ關係シタ此ノ男女兩性ノ死亡率曲線ノ間ノ相違トシテ其ノ曲線ガ常ニ變
化スルト云フ事ハ地方病學的ニ大キナ興味ヲ與ヘルモノデアアル。(小林芳抄)

13、大戦後ノソビエトロシアニ於ケル結

核死亡率及ヒ其ノ原因

I. I. Feinschmidt.

醫師が死因ヲ必ズ確定スルト云フ事ハ、此ノ聯合ニ於テハ漸ク近頃ニナツテ行ハレテキルノテ、著者ノ統計ニ表ハレテキル結核死亡數ニ就テノ年代ハ充分モノデハナイ。又聯合ノ住民ノ多數ハ田舎ニ住ム者デ、田舎テハ醫師ノ證明書ニ依ツテ死因ヲ記録スルト云フ事ガ今マテ全ク行ハレテナカツタノデアアル。然ルニレニングラード、モスコ、オデッサ等ノ都市テハ既ニ大戦前カラ醫師ノ證明書ニ依ル其ノ死因ノ記録ガ實行サレテキタノテ、著者モ死亡率曲線ノ經過ヲ判断スルニ當ツテハ必然其等ノ都市ノ材料ヲ利用スベク餘儀ナクサレテキル。而シテ次ノ如ク結論シテキル。

(一) 大戦後ノ社會主義共和國聯合ニ於ケル結核死亡率曲線ノ經過ト其ノ死亡原因ニ就テ判定ヲ下サウトスル時ハ、是マテハ都市ノ材料ヲ根據トシテノミ判断ヲ下ス事ガ出來ル。

(二) 結核死亡率ノ大キナ係數ガ既ニ一九二三年ニハ大戦前ヨリモ低キ數ニ低下シテキル事ガ、統計上ノ年代カラ明ラカデアアル。

(三) 此ノ數ハ、聯合國ノ幾多ノ都市テハ年次減少シツ、アル。

(四) 田舎ニハ結核死亡數ニ就テ充分ナ統計上ノ日付ガ一ツモナイノテ、都市ニ於ケル死亡率曲線ト、田舎及ビ全聯合國ノ曲線トガ、ドノ位ニ一致スルモノカ云フ事ハ出來ナイノデアアル。

(五) 前記ノ都市テ觀察サレタ結核死亡率ノ減少ノ傾向ガ、ドノ程度ニ安定ノモノカ、確固トシテ發表スル事ハ出來ナイ。

(六) 大戦前ノ結核死亡率減少ノ原因竝ビニ戦争ト革命中ノ死亡率増加ノ原因

抄 録

殊ニ一九二三年ニ於ケル死亡曲線ガ著明ニ低下シタ原因ト結果ヲ思量シテ見

レバ、戦争後ノ共和國聯合ノ幾多ノ都市ニ於ケル結核死亡率減少ノ理由トシテ次ノ事ガ承認サレテバナラナイ。即チ第一ニ開放性結核患者ノ數ガ戦争前ニ比シテ比較的少イト云フ事、第二ニ社會經濟的狀態及ビ労働者保護ノ改善ト而シテ都市ニ住ム下層民ノ教化ノ標準線ガ向上シタ事デアアル。(小林芳抄)

14、無食鹽食餌ノ結核性疾患ニ對スル效果

Adolf Hermannsdorfer.

四例ノ種々ナ結核性疾患ニ就キ、其ノ病歴、所見、診斷等ヲ詳細ニ述ベ、而シテ無鹽食餌療法ヲ行ヒテ、其ノ經過ヲ觀察シタ臨牀實驗例ノ報告デアアル。

(小林芳抄)

15、慢性肺結核患者ニザウエルブルフーヘ

ルマンスドルフェル氏食餌ヲ長時使用

後ノ觀察

Max Mecklenburg.

著者ハ無食鹽食餌ノ肺結核ノ治療的效果ニ關スル價值ガ今尙決定セラレズニキルカラ、夫レヲ知ルタメニ本實驗ヲ行ツタモノデアアツテ、觀察期間ハ七ヶ月デアアル。而シテ其ノ結果ニヨツテ次ノ如ク結論シテキル。

三〇例ノ肺結核患者ニ就テ詳細ナ臨牀的觀察ヲナシタニ肺結核ニ對スルヘルマンスドルフェル食餌ノ治療效果ハ、創始者ガ云フ意味ニ於テハ證明シ得ナイ。但シ患者ノ或ル者テハ、結核感染ノタメニ惹起セラレテキル種々ノ臟器ノ機能障礙ニ對シテ、或ル好影響ガアルラシク思ハレル。此ノ意味ニ於テハ、本療法ハ更ニ結核ノ衛生的食餌療法トシテ用ヒラレル可能性ガ有ル。

一一八三

16、實驗的結核天竺鼠ニ就テ行ヒタル紫外線被放射ビニ「オゾン」化肝油水抽出物質ノ豫防及ビ治療試驗

Rolf Bergman, Jakob Mollerstrom u. Olie Rauterwall.

著者ノ實驗ハ二ツニ別レテキル、即チ一ツハ先ヅ、水抽出物質ヲ豫メ注射シテ、次テ結核菌ヲ接種シテ、對照動物ト比較シタ、豫防的效果ノ觀察テ、二ハ先ヅ動物ヲ結核ニ感染セシメテ後ニ、水抽出物質ヲ治療的ニ注射シタモノデアル、而シテ其ノ結果ハ紫外線被放射肝油ノ水抽出物質ヲ以テスルモ、「オゾン」化肝油ノ水抽出物質ヲ以テスルモ、殆ンド對照動物ト何等ノ相違ヲ認メナカツタノデアル。唯豫防的試驗ニ於テ「オゾン」化肝油ノ水抽出物質ヲ與ヘタモノテハ他二群ニ比シテ、結核病竈ニ硬化性變化が見ラレタト云フテキル。

尙著者ハ本論文ノ冒頭ニ於テ光線療法ニ就テ略述シ、更ニ紫外線放射ビニ「オゾン」ヲ作用サセル場合ニ、炭素分子が如何ナル勢力變遷ヲ蒙ルカニ就テ述ベテキル。

17、小學教師ノ肺結核

Dr. Franz Ickert.

一九二九年ニ、Brauning ハ、學校ニ於ケル結核ノ感染動機ハサシテ大ナモノデ無イ。何トナレバ吾々ハ教師ノ結核ニ原因スルト思ハレル小學生ノ結核ヲ見ルコトハ少ナイカラダト云ツテキル。之レニ反シ Steimeyer 及ビ Paesch ハ結核教師ニヨル感染危險ヲ力説シテキル。即チ兩説ノ間ニハ非常ナ間隙ガ存スルモノデアル。サテ何レガ正シイカノ問題デアルガ、今日マデニ

レヲ解決スルニ足ル研究報告ハ無イ。茲ニ於テ著者ハ二年間ニ亙リ、十二ノ小學校ニ於テ多數例ニ就テ、結核教師ト兒童ヘノ感染狀態ヲ統計的ニ研究シタノデアアル。本成績ハ其ノ意味ニ於テ吾々ノ興味ヲ引クモノガアリ、參考トナル點ガ多イ。茲ニハ但シ其ノ結論ダケヲ抄スルコト、スル。

著者ハ小學校ノ教師ガ、結核ニ罹ツテキルカ、又ハ結核テ死亡シタコトヲ聞クト、直ニ其ノ教師ニヨツテ教ヘラ受ケタ生徒ヲ其ノ他ノ結核相談所デ、臨牀的ニ「レントゲン」的ニ竝ビニ、血清學的ニ診察ラシタ。其ノ結核ニヨルト閉鎖性結核ヲ有スル教師ノ生徒ハ二五%ダケガ、「ツベルクリン」反應陽性ヲ示スニ過ギヌニ、開放性結核ヲ有スル教師ノ生徒ハ、三二・四乃至九三・五%ガ、「ツベルクリン」陽性ヲ示シタ。而シテ一七・六乃至一〇〇%ガ、教師カラ感染シタモノトセラレル。尙コノ「ツベルクリン」陽性反應ハ多クハ重感染ニ起因セルモノト思惟スベキ理由ガアル。是等兒童ノ四%ガ活動性結核ヲ有シ八・七%ガ、活動性カ又ハ非活動性デアリ、何レモ教師ヨリノ感染ニ歸シウル。教師ヨリノ感染ト見做シウル例ノ二〇・四%ハ、所見ヲ有シテキル。而シテ是等ハ多クハ、「アレルギー」ノ二期テ、三期ニ屬シテキルモノハナイ。

教師結核ノ一部分ガ、其ノ地方ノ結核相談所デ發見セラレルニ過ギヌカラ、開放性結核ヲ有スル男女教師ヲ早ク發見スル爲メニ、定期検査ヲ施行スルト云フ法律ノ制定ハ、論無シニ必要ナコトデ、夫レニ要スル費用ハ何トカナルモノト思ハレル。

18、國際聯盟ノ衛生委員會ノ研究ヲ基礎ト

スル「ツベルクリン」ノ統一的效力測定

Dr. Carl Prausnitz

國際聯盟ノ衛生委員會デハ、委員長 Madsen ノ提議ニモトツイテ、生物學的

治療劑及び、血清學的反應ノ標準檢定問題ヲ研究スルコトヲ、一九二一年十月二十二日ニ決定シタ。但シ檢定サルベキコレ等ノ治療劑又ハ製品ハ、其ノ組成ガ必ズシモ一定シテキナイバカリテナク、コレノ檢定法ハ多クハ動物試驗ニヨル即チ生物學的操作ニヨラチバナラヌノテ、ナカ／＼六カシイ問題ナノデアアル。今日マテ數年間ニ多クノ研究者及ビ研究所テ、多クノ異ナル方法ガ行ハレタノデアアルガ、夫等ノ方法、結果ハ同一製品ニ就テデモ統一的ニ比較スルコトハ許サレナイ。各國ガ使用スル檢定ノ標準ト云フモノガ決シテ一致シテキナイカラデアアル。コレ衛生委員會テ本問題ノ研究ヲ提唱シタ所以デアアルト云ツテ、著者ハ本論文テハ「ツベルクリン」ニ關シテノミノベテキル。「ツベルクリン」ノ檢定ハ委員會ノ委任ニヨツテ Calmette u. Poter ガバストール研究所テ行ツタモノデアツテ、使用シタ材料ハ彼等自身テ作ツタモノト、市販ノモノトノ二ツデアアル。先ヅ十六ヶ國ノ三十四ノ研究所ニ診斷的ニ用ユル舊「ツベルクリン」ノ標準ノ定メ方ニ就テ問ヒ合セタニ、製劑ノ作り方ニ就テ夫々非常ナル相違ガアツタノデアアル。例ヘバ人型菌又ハ牛型菌バカリヲ用ユルモノ、兩者ヲ混合シタモノアリ、處ニヨレバ更ニ馬、豚又ハ鳥ノ結核菌ヲ加ヘテキル。尙又「グリセリン」肉汁ノ組成トカ、培養期間ニモ著シイ相違ガアル。又培養後菌ヲ除クニ、凡テガ濾過ニ依ルトハ限ラズ、更ニ濃縮熱ニヨル殺菌及ビ殺菌劑ノ點加等ニモ大ナル相違ガ見ラレル。コレ等ニヨツテモ「ツベルクリン」ノ檢定ヲ統一スルコトガ如何ニ困難デアルカラ知ルコトガ出來タ。

サテ今日「ツベルクリン」檢定法トシテハ七種存スル、即チ(A)死ヲ起ササル「シヨック」ニヨル檢定法、(1)結核天竺鼠ノ皮下ニ注射シテコレヲ殺ス量ニヨル Koch-Donitz ノ原法。(2)「ツベルクリン」腦内ニ注射シテ「シヨック」

ヲ起サセル v. Lingelsheim u. Borrel ノ法。(B)局所的「アレルギー」ヲ見ル檢定法。(c) Long ノ精細胞反應(Spermatozysten reaktion)テ、「ツベルクリン」ヲ結核天竺鼠ノ辜丸ニ注射シテ 精細胞ノ變化ヲ見ルモノ。(4)結核天竺鼠又ハ牛ノ皮内反應。(5)結核患者ノ皮膚ノ「アレルギー」ニヨル法。(C)血清學的操作。(6)補體結合反應。(7) Dreyer u. Vollum ニヨル、凝積反應ニヨルモノ、コレデアアルガ、何レモ一利一失アリ、特ニ(2)ノ如キハ今日ハ認めラレテオラヌ。

サテ「ツベルクリン」檢定テハ(1)ノ方法ガ最モ一般ノ注目ヲ示スモノデアツテ即チ結核動物ニ皮内ニ注射シ、又ハ結核患者ニ應用スルモノデアアル。但シコノ「ツベルクリン、シヨック」ヲ惹起スル物質ト、局所「アレルギー」ヲ惹起スル物質トガ、同一抗體デアアルヤ否ヤニ就テハ Calmette u. de Potter ハ少ナカラザル疑問ヲ有スルヤウデアアル。兩氏ハ其ノ比較試驗ニ際シテ(1)ノ方法ヲ用ヒナカツタカラシテ、コノ疑問ノ不解ノマ、殘サレテキルワケデアアル。兩氏ハ十八種ノ「ツベルクリン」ヲ自己ノ標準「ツベルクリン」トノ比較試驗ヲ前記ノ(4)(5)(6)及ビ(7)ノ方法ニヨツテ行ツテキル、而シテ其ノ成績ハかなり興味多イモノガ見ラレル(本成績ハ表示サレテキルガ、各「ツベルクリン」間ニ非常ナル相違ガ見ラレルノデアアル。例ヘバ皮内反應ヲ惹起シウル最後ノ濃度ダケテ見テモ十倍カラ二五〇〇倍(標準「ツベルクリン」マデノ開キガアル)。兩氏ハ尙研究ノ結果天竺鼠ニ於ケル皮内反應ハ嚴ニ特異性結果ヲ示スモノデアアルコト。「グリセリン」肉汁ヲ濃縮シタモノトカ、他ノ抗酸性菌ニヨリ作ツタ「ツベルクリン」様製劑テハ起ラナイコトヲ發見シテキル、故ニ「ツベルクリン」ノ檢定ニハ先ヅ本法ヲ稱揚スル。但シ「ツベルクリン」ヲ用ヒヤウトスル種族結核個體ニ就テ先ヅ規則的ノ追試ヲ行フベキデアアルト云フ。

兩氏ノ業績ニヨリ、検査委員會ハ其ノ操作方法ニ就テ説明シタ後ニ更ニ進ンテ、フランクフルトアムマイン、巴里及ビ東京ノ研究所テ今日マテ用ヒタ標準「ツベルクリン」ヲ比較シタ。コノ比較ハフランクフルトロンドンノ國立研究所テ行ハレタモノデ、其ノ結果三ヶ處ノ「ツベルクリン」ガ全ク一致シタ成績ヲ得タノデアル。カクシテコノ重要問題ハ好結果ヲ以テ解決シ コーペンハーゲンノ國立ノ血清研究所ニ於テ各國ニ用ヒラレテキル標準「ツベルクリン」ガ一定ノ期間ニ調ベラレルコト、ナツタノデアル。

検査委員會ハ一九二八年ノ會合ニ於テハ、コノ次ギノ總會マデニハ國際的ノ標準「ツベルクリン」ガ得ラレルト云ツテキル。「ツベルクリン」ヲ國家ガ檢定シテルノハ、獨逸以外テハ、ブラジル、フランス、イタリー、日本及ビチッコソロバキアデアル。

本文ノ著者ハ近キ將來ニ於テハ國際聯盟ノ力ニヨツテ、統一の製劑及ビ夫レノ統一の檢定法ニ關スル一致が見ラレンコトヲ希望スルト云ツテ本文ヲ結ンデキル。(佐々抄)

The American Review of Tuberculosis, Vol.

XXIII, No. 4, 1931.

19、實驗的骨關節結核症

W. J. Spring

第一報

實驗動物ハ海猿體重三三四乃至五七〇瓦ノ者ヲ用フ。三種ノ人型結核菌ヲ種ノ菌量ニ於テ膝關節腔内ニ注射シ(豫メ弱毒菌ヲ以テ感受シ置キタル者ニ)ソノ經過ヲ觀察シ及ビ剖檢ニ依ルニ、實驗的ニ關節囊ノ結核、或ハ骨髓結核

ヲ起シ得タリ。病變ノ程度ハ注射シタ菌量ヨリモ菌ノ毒力ニ依ルコト著シ。

(伊藤抄)

第二報、初感染ト二次感染ニオケル比較研究

實驗的關節炎ガ初感染ト二次感染ノ場合ニ於テ如何ナル相違ヲ示スカヲ海猿ヲ用ヒ前報ノ如ク實驗スルニ、臨牀的ニモ解剖的ニモ各、二者ノ間ニ差異ヲ示ス。ソレハ恰モ他ノ器官組織ノ結核ノ場合ニ於ケル一次感染ト二次感染ノ相違ト同様ノ關係ヲ呈ス。

(伊藤抄)

20、人工氣胸ノ患者ニ於ケル白血球像

E. M. Medlar and G. S. Pesquera

白血球像ハ人工氣胸ヲ施行スルニ當リ、何時氣胸ヲ始ムベキカ、又何時他ノ虛脫療法ヲ之ニ加ウベキカト云フ場合ニ非常ナ良イ目標トナル。

著者ハコ、ニ三例ノ氣胸患者ノ例ヲ記述シ、三ヶ月間臨牀安靜療法ヲシテモ白血球像ノ好轉シナイ様ナ場合ハ當然、肺虛脫療法ヲ行フベキデアリ、六ヶ月間人工氣胸ヲ繼續シテモ尙白血球像ノ好轉セヌ様ナ者ハ更ニ横隔膜神經攣除、胸廓成形術等ヲ行ハナケレバナラス。

(伊藤抄)

21、結核海猿ノ Desensitization ニ就イテ

J. Weinzirl and R. M. Bohart

Partial Desensitization 可能デアル。皮膚反應ニヨリテハノノ程度ノ Desensitization 不明ナルガ、systematic Reaction (De Jong 氏ノ Organic Reaction)ニヨツテ檢スレバ分ル。著者ハ Desensitization ノ抗原トシテ「ツベルクリン、ツベルクリン」蛋白、石炭酸「フクシン」ニヨル死菌、「エーテル」ニヨル死菌ヲ用ヒタルニ、最後者が最モ有效デアル。(伊藤抄)

22、結核症ニ於ケル磷酸鹽沈降反應ノ機序

Ch. Doan and D. M. Moore

Phosphatide fraction A-3 (Anderson) 氏が結核菌ヨリ化學的ニ折出セル磷酸鹽ヲ以テ正常動物組織ニ作用サヤルト結核ノ如キ上皮様細胞ト、巨細胞ヲ形成スル。コノ物質ハ結核症ニ於テ沈降反應ヲ起ス。B, C, G 接種ノ小兒ニ就イテ、磷酸鹽ヲ以テ沈降反應ヲ行ヒ、血液像「ツベルクリン」反應ヲ對照シ磷酸鹽沈降反應ヲ種々記述セリ。

(伊藤抄)

23、肺結核症ニオケル血清「カルシウム」ニ就テ

J. Kaminsky and D. L. Davidson

血清中ノ「カルシウム」量ニ關シテ、一五四名ノ肺結核患者ニ就イテ檢シタルニ、(Kramer and Tisdall)ノ方法ニ據ル)一〇〇珉血清中ノ含量、一一・六乃至七・五二珉ナリ。

而シテ病竈ノ大ナルモノノ進行性ノ者ニハ含量ノ少ナルモノ多ク病竈ノ小ナルモノ、停止性ノモノニハ含量ノ多ナルモノ多シ。喀痰有菌者ニハ含量少キモノ多シ。喀血トノ關係ハ著明ナラズ。性ニ關シテモ區別少シ。年齢別ニテハ三七乃至四六歳間ノ者含量少、四七乃至六四歳間ノ者ハ含量多。一七乃至三六歳間ノ者ニ於テハソノ中間ヲ占ム。

肝油ヲ服用セルモノニハ概シテ含量多ニシテ其ノ中ニハ正常血清「カルシウム」量ヨリモ過多ナル者アリキ。

(伊藤抄)

24、結核患者ノ心臓筋肉内ノ水分並ニ無機物ノ含量

抄 録

I. C. Scott

一四例ノ肺結核患者及ソノ對照トシテ他ノ疾病ニテ死亡シタル一四例ノ心臓筋肉ヲ定量分析シタル結果(表ヲ以テ示ス)。

結核患者ノ心筋内ノ水、及無機物ノ含量ハ大體ニ於テ對照ノソレニ一致スルモ、水ノ含量ハ對照ニ比シテ多量ナルコトヲ明カニセリ。

(伊藤抄)

25、人工氣胸ニオケル空氣栓塞

C. H. Andrews

一症例報告ナリ。

上部ニ肋膜癒著アリ。陽壓ヲ以テ空氣送入ヲ行ヘル患者ニシテ約十ヶ月間氣胸ヲ施行セル者ニテ、後補充ノ際ナシ空氣栓塞ヲ起シタルモ幸ニシテ恢復セル例ヲ詳細ニ記載セリ。

(伊藤抄)

26、結核患者ニオケル不眠症

W. C. Service

綜說的ニ正常ノ睡眠ヨリ述べ、不眠症ニ就イテソノ種類、型等ヲ症例ヲ以テ說明シ、不眠ノ體溫、脈搏、消化器ニ及ボス影響ヲ述べ、不眠ノ療法トシテ心身ノ安靜、睡眠劑投與ヲ記シ、「アマタール」、「ヂアール」、「イブラール」、「プロムラール」、「アダリン」、「パラアルデヒド」等ヲ一々批判說明セリ。

(伊藤抄)

27、シリヤニ於ケル結核

R. H. Goodale

American University Hospital ニテ一九〇八—一九二九年間ニ得タ結核患者ノ臨牀的事項ヲ統計セルモノナリ、コレニヨルト一一五〇各ノシリヤ人、アルメニヤ人ノ患者ノ中肺結核患者四一二名ニ對シ肺以外ノ結核患者七三八名

ニテ遙カニ多ク、ソノ中主トシテ骨及關節結核ナリ。詳細ハ表ヲ以テ示ス。

(伊藤抄)

結核専門外雜誌

28、肺結核ノ外科の手術ニ關スル病理解剖

學的研究並ニ其臨牀的意義

窪田忍(十全會雜誌第三六卷第一號)

肺結核手術例中テ死亡シ、病理解剖ノ行ハレタモノ一五例ニ就テ著者ガ肉眼的並ニ病理組織學的ニ詳細ニ檢案シタ成績發表テアル。

(小林芳抄)

29、肺結核手術ノ赤血球沈降速度ニ及ボス

影響(第一回報告)臨牀的研究

小坂政一(十全會雜誌第三六卷第一號)

著者ハ、主トシテ昭和四年度ニ於ケル手術的療法ヲ受ケタ肺結核患者ノ多數ニ就テ赤沈速度ヲ檢査シ、以テ手術的肺結核療法ガ本反應ニ及ボス影響並ニ豫後トノ關係等ニ就キテ研究シ次ノ如ク結論シテキル。

- (一)結核性諸疾患ニ於テハ赤沈速度ノ促進ヲ認メ(一六耗—四七耗)、骨、關節ノ結核ニ於テハ下垂膿瘍ヲ有スル者ハ之ヲ有セザル者ニ比シ著シク促進ス。
- (二)肺結核患者ノ平均赤沈速度ハ四二・四耗、合併症アルモノハ、ナキモノニ比シ僅カニ促進ス。病型ニヨリテ分テバ萎縮型九・四耗、増殖型四一・九耗混合型五三・七耗、滲出型六四・七耗ナリ。
- (三)横膈捻除術後ハ六三乃至七〇%ハ赤沈速度遲延シ、増殖型、混合型、滲出型ニ著シ、外科的氣胸竝ニ肺剝離ニ於テハ五〇乃至六七%遲延シ、増殖型

ニ著シ。胸廓成形術ニ於テハ第一回、第二回手術共ニ術後ハ六〇乃至八五%遲延シ、混合型ニ於テ最モ著シ。何レノ手術モ術後赤沈速度ノ遲延率ハ時日ヲ經過スルニ從ヒ上昇スル。

(四)合併症ノ手術後モ赤沈速度術前ニ比シテ遲延スル。遲延率ハ時日經過ト共ニ漸次上昇スル(五八乃至七七%)。

(五)豫後ト赤沈速度ノ關係ハ手術ニヨリテ全治或ハ輕快セル肺結核患者ノ八〇%以上ハ赤沈速度ノ漸次遲延スルヲ見。未治及ビ死亡例ハ遲速相半パス。

(六)赤沈速度ハ肺結核患者喀痰中ノ結核菌數、彈力纖維ノ消長及ビ白血球像ノ變動ニ略々平行スル。

(小林芳抄)

30、再ビ子宮結核症ニ就テ

井上剛(十全會雜誌第三六卷第五號)

著者ハ前號ニ於テ記載セル十二例ト更ニ得タル六例ノ子宮結核症ヲ綜合考察シ、之ヲ部位の關係、及經過並ニ病理組織學的ノ三方面ヨリ分類シタリ。猶ホ病理解剖竝ニ組織學的檢案ヲナシ次ノ結論ヲ得。

- 一、子宮筋層ノミニ病竈ヲ有スルモノ一例及筋層ニ結核性肉芽ヲ多發シ乾酪性變化ヲナシ軟解セルモノニ内膜ノ變化ヲ繼發セルモノ、一例ヲ見タリ、斯ル例ノ記載ハ比較的稀ナリ。
- 二、結核性子宮内膜炎ハ最モ多數ナレドモ、子宮筋炎モ亦可ナリ屢々遭遇セラル且ツ其ハ必ズシモ内膜ノ變化ガ高度ナルモノノミニ來ルモノニアラズ。
- 三、子宮内膜ノ結核症ハ滲出性變化ヲ伴ヘルモノ多ク増生變化ヲ主トセルモノハ算キニ反シ筋層ニ見ラル、モノニハ増生變化ヲ主トス。(岩岡抄)

31、男子生殖器結核殊ニ副辜丸切除ノ效果

ニ就テ

Nylander, P. E. A.

(Zentralblatt für die gesamte Tuberkuloseforschung, Bd. 34,

H. 3/4, 1931.)

二四四例ニ就テノ觀察ニシテ此中九一例ハ手術ヲ施行セズ、八三例ハ副峯丸切除、七〇例ハ峯丸切除ヲナセリ。

副峯丸、峯丸結核ハ二〇乃至二九歳ニ最モ頻發シ、五乃至一四歳ノ間ニハ殆ンド來ラザルモ、五歳以下ニ於テ一二例ヲ觀察セラレタリ、此事實ヨリ著者ハ生殖器ニ於ケル初發結核病竈ハ小兒ニ於テハ峯丸ニ起リ、成人ニ於テハ先ヅ副峯丸ニ始マルト云フウェーチル氏ノ見解ニ反對セリ、八三例ノ副峯丸切除ヲ行ヘル患者中二例ハ粟粒結核ノ爲メニ仆レタルガ、著者ハ此レヲ手術ニ基因セルモノトナセリ、全手術例中四二例ハ死亡シ、三〇例ハ生存シ、一一例ハ不明ナリ、四二例ノ死亡者中二六例ハ結核、一二例ハ他ノ疾患、四例ハ死因不明ナリ、手術ノ永續的效果判定ノ爲メ三年間觀察シ猶一側或ヒハ兩側罹患及ビ合併症等ニヨリテ更ニ分割表示ス。(春木抄)

32、喉頭ニ發生セル扁平表皮細胞癌ヲ有ス

ル結核腫

Voorhuyzen, D. G. W. van.

(Zentralblatt für die gesamte Tuberkuloseforschung, Bd.

34, H. 3/4, 1931.)

四八歳ノ男子二年以來強烈ナル咳嗽刺戟、五ヶ月來嘔聲アリ、喉頭検査ニヨリ小葉大、圓形平滑ナル腫瘍ガ左側披裂會厭嚥下ニアリ、氣管切開、人工喉頭裂開ニヨリ腫瘍ヲ切除シ、組織學的検査ノ結果、纖維結核腫ニシ其中二角化セル扁平表皮細胞癌ノ生セルヲ知レリ。(春木抄)

會報並雜報

會報並雜報

○八月中新入會者

豐田 菅次郎 香川縣三豐郡豐田村

東京市健康相談所 東京市小石川區大塚辻町一八

相澤 秀雄 東京市神田區表猿樂町二一

○會員ノ訃

左記會員ノ訃報ニ接ス、謹シテ弔意ヲ表ス。

須田 玄道